

○ 学級活動

生徒会活動

学校行事

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

| | | | |
|-------|-------------------------|-----------|------|
| 学校名 | 熊野町立熊野東中学校 | 対象となる主な学年 | 第3学年 |
| 取組事例名 | 「筆まつりで地域貢献（熊野でハッピーライフ）」 | | |

| ◆ 生徒の実態及び取組を通して育てたい生徒像 | |
|--|--|
| 生徒の実態 | 取組を通して育てたい生徒像 |
| <p>集団の一員としての自覚や責任感が十分に育っておらず、互いの違いを認め合いながら協力してよりよい集団を形成しようとする意識に課題が見られる。また、自己の役割や存在意義を実感する機会が限られており、自己存在感や自尊感情の低さが課題として認められる生徒も見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・他人を思いやり協力して力を発揮する生徒。 ・熊野町を愛し、町の一員としての自覚をもち、地域の発展に貢献しようとする生徒。 ・目標に向かって粘り強く努力を重ね、自信をもって進路を切り開こうとする生徒。 |



| ◆ 取組の具体的内容 | |
|---|--|
| 取組を実施する意図及びねらい | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として地域社会で行動していこうとする態度を育てる。 ・日常生活や社会への参画意識を醸成する。 ・課題の解決に取り組んだことへの自信や自尊感情を育む。 | |
| 取組の流れ・創意工夫・生徒の変容等 | |
| <p>○本校では、総合的な学習の時間において「地域学習」に取り組んでいる。今年度は、総合的な学習の時間との関連を図り、生徒が地域社会の一員として主体的に行動し、地域に貢献する態度を育成するとともに、自己有用感や自尊感情の向上を図ることを目的として、地域行事である「筆まつり」への参加を実施した。</p> <p><事前の指導></p> <p>1 筆まつりで何ができるか案を出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に「筆まつり」へ参加する態度を育成することを目的として、生徒自身が活動内容を検討し、決定する場を設定した。生徒は、主体的かつ協働的に活動に取り組む様子が見られた。【自己決定の場の提供】 <p>2 筆まつりに向けての取組のスローガンを決定、チームに分かれて活動（準備計画、分担）、筆まつりに向けて準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働する力の育成を目的として、小グループによる課題発見および解決に取り組む活動を設定した。生徒が、互いの意見を尊重しながら協力して活動に取り組む姿が見られた。【共感的な人間関係の育成】 <p><筆まつりへの参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主的に課題を発見し、解決する力を育成することを目的として、教員主導ではなく、小グループのリーダーを中心とした活動形態を設定した。その結果、生徒には責任感や自尊感情の向上などの成長が見られた。【自己存在感の感受】 <p><振り返り、チームごとにまとめの作成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの場面では、生徒から「子どもや大人から感謝されることは、自分にとって大きな喜びであり、やりがいを感じた」との発言があった。生徒が地域の中で他者の役に立っていることを実感し、自分の存在や役割に価値を見いだすなど、自己存在感の高まりが具体的な言葉として表出する様子が見られた。【自己存在感の感受】 | |

| ◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●） | |
|--|--|
| <p>○生徒は地域社会の一員として主体的に行動し、他者と協働する力を高めることができた。生徒主体で活動を進めたことにより、役割を意識して責任をもって行動する姿が見られ、地域の人々から感謝される経験を通して、自己有用感や自己存在感の向上につながった。</p> <p>●生徒の主体的な活動には個人差が見られた。全ての生徒が見通しをもって活動に取り組めるよう、役割分担の明確化や振り返りの充実を図り、生徒一人一人の主体性をさらに高めていく必要がある。</p> | |